

早稲田大学  
図書館蔵

# 三条西家旧蔵文学書目録

井上宗雄  
柴田光彦

## 凡例

一、書名は内題でとるようにしたが、内題のないものは外題でとった(但しその区別は表記しない)。内・外題なく、或はあつても内容と非常にそぐわない場合には「」を付して仮の書名として掲出した。

一、卷子本は巻で、冊子本はすべて冊であらわした。  
一、番号を○で囲んだものは、後に解説を行ったものである。

## I 目録

### 一 和歌

#### イ 歌学・歌論

1 実条公雜記紙背書簡 三条西実条問・中院也足子(通勝)答

写(実条筆) 中横 一冊 (扉に文祿五云々。「一、つき五  
十首」以下個条書の問答。題簽後補以下実条關係の書の  
題簽はすべて後補)

2 幽齋聞書紙背書簡歌稿等 細川幽齋 写(三条西実条筆)

#### ロ 撰集・撰集注釈

中横 一冊 (「一、やつほの椿」以下の解説)

③ 僻家集 藤原定家 写(室町末期) 中横 一冊

(三代集選釈。文応元・正応二・文明五年等の本奥書あり、  
末に別筆にて文祿三年七月右中將藤(花押) 実条)

4 「三秘抄」題簽「三鈔」 藤原為家 写(三条西公条筆)

小栞型 一冊(扉に「披雲」「公条」の黒印。三代集選釈。  
参考——三条西公正氏「三秘抄の有つ伝統的意義」国語と  
国文学 昭和九年二月)

5 「古今集注」 秋都以後 写(室町中期) 大 一冊

(仮綴。片仮名本)

6 「古今集注」 写(室町末期) 小横 一冊 (仮綴)

7 「古今伝受書」 写(永正七年二月十八日三条西実隆筆)

一卷(未装。切昏事・三鳥大事・古今伝受次第等)

8 「古今相伝人数分量」 宗祇 写(室町中期) 大 一冊  
(仮綴。伊勢物語伝受・古今相伝人数分量を収める。参考)

『圖書寮典籍解題統文学篇』

9 「古今伝受書」 写（室町末期） 中一冊（仮綴。古今

二字相伝紙一を付す）

10 「万葉拔書」 写（江戸初期） 小一冊（仮綴）

八 私家集

11 実兼公集 西園寺実兼 写（江戸中期） 中一冊

（桂宮本叢書所収本と同）

12 「三条西実連詠草」 享徳四年 三条西実連 写（自筆） 一卷

13 「三条西実連詠草」 三条西実連 写（自筆） 一卷

丹州に実条公御詠草 文禄三年六月十月

14 おける実条公御詠草 紙背物語 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

15 実条公御詠草 文禄三年八月十二日 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

16 実条公御詠草 文禄四年 紙背歌稿 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

17 実条公御詠草 慶長二年二月 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

18 実条公御詠草 慶長三年 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

19 「実条詠草」 慶長五年頃 紙背歌稿等 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

（未装）

20 実条公御詠草 慶長八年九月二日 紙背書簡等 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

21 実条公御詠草 慶長十四年一、二月 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

22 実条公御詠草 慶長十五、十七年歌草少々 紙背鳥丸光広・水無瀬氏成書簡 三条西実条 写（自筆） 中横 一冊

東国名所在名ニ付雑々覚

23 一冊（慶長十九年江戸下向の折の詠歌 付記参照） 三条西実条 写（自筆） 中横

24 「寛永五年八月中院□法楽」 三条西実条カ 写（江戸初期） 一紙

25 愚詠并染毫物事 慶応三年 三条西季知 写（自筆） 中一冊

（仮綴）

26 「三条西季知詠草」 慶応四・明治二年 外題季知記 三条西季知 写（自筆） 中横 一冊

「東京供奉の時詠歌以下」

27 小柄型 一冊（未装。東京供奉の時詠歌・明治二年詠草・二年以後十年に至る献上題を収める） 三条西季知 写（自筆） 中横 一冊

28 「三条西季知歌稿」 明治三、十二年 三条西季知 写（自筆） 大 一冊

29 「明治七、十一年歌稿」 写（明治初） 大 一冊

（仮綴。七、九年は宮内省野紙を用いた歌稿で、外題「明治七年同八年 月次并当座 右、近藤芳樹・松平忠敏拜見」

本文は朱による添削多し。十年欠。十一年は菊紋・「貴春」の印刷ある野紙を用いた歌稿）

30 「明治十一年、十二年御製・皇后御歌」 明治天皇・同皇后 写（明治初） 大 二冊（仮綴）

31 「三条西季知歌稿断簡」 明治初 三条西季知 写（明治初期） 九紙（中に明治十二年云々とあるものあり）

二 定数歌

32 〔冷泉為広百首〕 上冷泉為広 写(江戸中期) 中一冊

(仮綴。端作り「百首和歌 権中納言為広」、巻頭歌「霞世は春に鳴尾の松の緑よりおきをふかめて立かすみかな」)

33 〔良恕百首〕 良恕親王 写(自筆) 一卷

(未装。巻頭歌「立春 明よりしづけさみせて春の色のけふ立渡る天のうきはし」)

34 澄覚着到百首 澄覚(冷泉為村) 写(江戸中期) 中一冊

(仮綴。端作り「百首 ため村」、巻頭歌「住の江や千世の姫松ことの葉のいろそふかげに春はきにけり」)

35 夏日同詠五十首和歌 三条西実条 写(自筆) 一卷

(未装。端作り掲出の題、署名「権中納言藤原実条」、巻頭歌「早春 わきてこの春ものどけし月も日もくはるとしのそらにあけつつ」)

木 歌会・歌合

36 寛永三年御月次自二月至六月 貞清親王・飛鳥井雅胤・中院通村以下 写(寛永三) 大横 一冊

37 正徳四年八月廿一日吉田社御法楽 九条輔実・六条有藤・高倉永福以下 写 二紙

38 公宴御月次和歌御会享保四年六月廿四日 邦永親王・水無瀬氏孝・烏丸光栄以下 写(江戸中期) 小横 一冊 (仮綴)

39 享保十三年十一月六十賀 三条西公福以下 写 一紙

40 九月廿三日愛宕社御法楽 中院通躬・園基香以下 写 一紙

41 〔泉州佐野十二景和歌〕 武者小路実陰・日野輝光以下 写 一紙

42 〔詠草〕 御製・職仁親王以下 写 一紙

43 〔詠草〕 直仁・職仁親王以下 写 一紙

44 〔歌合及び歌会詠歌〕 外題、歌道之事人々内談和歌并雜々 関係者 写(江戸末期) 大 一冊 三条西家

三 三条西家関係懐紙

45 〔三条西実条懐紙〕 写(自筆) 一四六部一四七枚

細目 (点・評点あるものが多いが、点者分明の場合のみ注記した。また内裏・仙洞御月次などとする場合の「御」

同じ年月が続く場合の年月は省略した。\*印は別書肆より購入したもの) 1 天正九年四月廿四日(雁三首) 2 十九

年七夕(乞巧奠三首) 3 廿五日月次公宴(新秋露以下七首) 4 廿八日(薄村々以下六首) 5 同日(都月二首) 6 重

陽公宴(菊花薰袖三首) \*7 十二月廿四日(穂田二首 幽齋)

8 廿年重陽(菊花浮盃二首) 9 十二月廿五日勸修寺入道九

十賀(山路秋過四首) 10 文禄二年八月六日公宴(名所月

以下四首) 11 閏九月四日(丹後云々、初秋露以下六首)

12 廿五日公宴(紅葉以下六首) 13 三年八月七日於丹州也

足(早秋露以下六首) 14 十九日丹州月次(薄出穂以下六

首) 15 同(草庵月以下四首) 16 九月十九日丹州月次(菊

露以下六首) 17 四年二月廿五日公宴(杜紅葉二首 幽齋)

評点)

18 七夕公宴（七夕草以下二首） 19 九月十三日（飛鳥井中納豆）飛中月次  
（九月十三夜以下五首） 20 五年一月廿四日公宴（水郷月以下四首幽齋評点） 21 慶長五年七月公宴（懷牛女言志三首中院評点）  
 22 廿四日公宴（遠江早秋以下六首中院評点） 23 十月廿四日公宴  
（七夕四首中院評点） 24 六年六月廿四日公宴（原露以下四首中院評点） 25 七夕公宴（星夕曝書二首中院評点） 26 某月重陽（菊  
 藥独盈枝三首） 27 九月廿四日公宴（林葉漸紅以下四首中院評点）  
（藥院入） 28 同（林葉漸紅二首中院評点） 29 八年九月廿六日兼  
 日日次会初（山紅葉二首） 30 同日当座（早秋以下六首）  
 31 九年四月廿八日（林葉漸紅二首） 32 八月六日中院亭月  
 次（秋草以下四首） 33 同（月前雁以下四首素然評点） 34 十年  
 二月八日（新秋露以下六首） 35 八月廿九日中院亭月次当  
 座（秋田以下四首） 36 九月十六日当座（菊有傲霜枝二首）  
 37 某年十五年以前。或  
 是天正廿年か。二月廿日（丹後云々。寄国祝二首幽齋法印  
 点） 38\* 某年十五年（星夕曝書三首素然评点） 39 十六年重陽公宴  
（離菊新綻二首） 40 廿五日公宴（秋深夜長以下六首）  
 41 元和二年重陽禁中（九月九日一首） 42 三年三月八日禁  
 中当座（晚鶯以下六首） 43 四年七夕禁中（織女借別以下  
 八首） 44 重陽公宴（終日翫菊一首） 45 十月廿八日公宴  
廿四日 延引（原薄四首） 46 五年二月廿二日水無瀬法菜及び廿  
 五日聖廟法菜（晚初雁・寄月恋各一首） 47 五月六日禁中月  
 次（隣里鷄二首） 48 七月六日禁中月次（聞萩以下四首）  
 49 六年七夕禁中会等（七夕地儀四首） 50 廿四日公宴月次  
（早凉知秋二首） 51 八年七夕禁中（名所七夕以下九首）

52 八月十二日・十五夜（遠萩以下二首） 53 廿一日禁中後  
 陽成院正忌短冊（入於深山三首） 54 九月六日禁中（秋夕  
 以下四首） 55 九日禁中（菊送多秋二首） 56 十三日禁中  
（月下菊以下四首他七御製二首） 57 九年七夕禁中（七夕霧一首）  
 58 後八月廿四日禁中月次（秋水以下六首） 59 九月六日禁  
 中月次（閑霧以下六首） 60 重陽御会（菊香隨風一首）  
 61 十三日当座（都月以下四首） 62 廿四日禁中月次（七夕  
 橋以下六首） 63 寛永元年七夕禁中会（七夕即事一首）  
 64 八月十七日詩歌御会（池月以下四首） 65 廿四日宮中月  
 次（鹿声留人以下四首） 66 卅日九条殿会（簾萩以下六首）  
 67 九月六日禁中月次（秋天象以下六首） 68 四年九月十一  
 日御当座（萩露以下六首） 69 十三日詩歌御当座（河月以  
 下四首） 70 目次（表は六月廿五日月次の路薄以下題のみ）  
 裏は四廿五宮月次、路薄二首） 71 七年  
 七夕（七夕硯五首） 72 九年七月廿四日・八月廿六日禁  
 中（尋恋以下八首） 73 廿六日禁中（行路萩二首） 74 八  
 月十七日御月次（月契秋以下二首） 75 廿五日仙洞法菜  
（新秋田六首） 76 廿六日禁中月次（関月二首） 77 同年  
 短冊型小紙片（一首） 78 十年八月廿五日院法菜（寄秋鳥  
 恋以下十二首） 79 同日（同題六首） 80 九月廿四日禁中  
 月次（臥待月二首） 81 卅日国母当座（萩以下四首） 82  
 十月十七日禁中当座（海路二首） 83 十一年三月廿四日禁  
 中月次（名所山三首） 84 九月廿六日禁中月次（原刈萱二  
 首） 85 十二年三月十三日江戸政宗亭俄当座（浦月以下二  
 首） 86 八月十五日（一首） 87 九月廿四日公宴月次（海

- 路一首) 88 十三年六月十七日禁中当座(草花以下二首)  
 89 八月十五日(二首) 90 同日(三首) 91 同日禁中月次  
 (庭月以下二首) 92 九月十三日(二首) 93 九月亭月次  
 (菊露以下十一首) 94 十四年七月六日亭月次(風告秋二  
 首) 95 十月廿四日禁中月次(梅以下四首) 96 十五年八  
 月十五日(月前鹿以下四首) 97 重陽公宴(花中唯受菊八  
 首) 98 十六年七夕禁中(七夕祝以下十八首) 99 八月十  
 五夜院当座(十五夜当日以下四首) 100 重陽禁中会(菊映  
 月以下十二首) 101 十三日院当座(月前星以下四首) 102  
 年月不明以下(初春以下三首裏七首) 103 (鶯以下二首)  
 104 (七夕月以下五首) 105 (七夕草以下五首) 106 (七夕  
 琴二首) 107 (七夕一首) 108 (七夕七首) 109 (七夕詠  
 すべて墨消) 110 (萩露以下三首) 111 (庭萩以下六首)  
 112 (權以下四首) 113 (薄出穂以下六首) 114 (花すゞき  
 一首) 115 (路薄以下四首) 116 (女郎花以下二首) 117  
 (蘭薰一首) 118 (秋田二首) 119 (野鶉一首) 120 (叢  
 虫以下七首) 121 (こまひき一首) 122 (秋宮城野以下五  
 首) 123 (隣月三首) 124 (月契多秋以下三首) 125 (同  
 三首) 126 の1 (月前雁以下四首) 126 の2 (上の続き二  
 首) 127 (月照古橋三首) 128 (十五夜当日以下八首)  
 129 於江州松尾寺(八月十五夜以下八首) 130 (河月三首)  
 131 (月十五首) 132 (月二首) 133 (月以下八首) 134 (月  
 前攝衣以下二首) 135 (菊映月以下九首) 136 (月照菊花  
 二首) 137 (菊以下四首) 138 (黄葉以下二首) 139 (紅

46

- 葉写水以下十首) 140 (林葉漸紅五首) 141 (里黄葉三首  
 すべて墨消) 142 (三首裏七首) 143 (法華經号を始めに  
 おきて十如是十首) 144 (池水久澄四首) 145 (寄国祝二  
 首) 146\*
- 〔三条西諸家懷紙〕写(各自筆) 一〇一部一〇二枚
- 細目 1 加距丸 寛永九年六月廿四日禁中会(瞿麦以下  
 六首) 2 三条西実教(以下8まで) 寛永十四年六月十一  
 日家当座(慈円以下二首) 3 十五年十月十七日禁中月次  
 (冬山以下六首) 4 十六年二月廿四日禁中当座(増根若  
 草四首) 5 十七年十一月廿四日愚亭(落葉以下九首)  
 6 年月不明以下(款冬以下六首) 7 (歳中立春以下三十  
 余首) 8 (雨中早苗以下四首) 9 三条西公福(以下34  
 まで) 享保八年三月九日法皇当座(見花以下四首) 10 四  
 月十三日内裏当座(採早苗以下四首) 11 五月九日法皇当  
 座(寄月花以下六首) 12 八月八日院当座(尋郭公以下四  
 首) 13 十二日内裏当座(秋旅以下四首) 14 元文五年三月  
 廿九日妙門主当座(風静花芳以下五首) 15 四月十九日内  
 裏当座(杜禱以下四首) 16 六月聖廟法楽(暮春水以下三  
 首) 17 後七月公宴(深更萩以下五首) 18 の1 八月十五日  
 (待月以下) 18 の2 (上の続き、計十五首) 19 廿四日  
 公宴月次(養思以下八首) 20 重陽公宴(菊粧如錦以下五  
 首) 21 重陽記録所内々当座及び廿四日御月次(名所菊以  
 下三首) 22 九月十三夜内裏詩歌当座(停午月以下四首)  
 23 十月廿一日於妙門当座(月前虫三首) 24 廿四日公宴(渡

時雨以下六首) 25十一月廿八日公宴(夏月以下三首) 26年月不明以下(都早春以下十首) 27(忍久恋四首) 28(禁中翫月四首) 29(船納涼以下四首) 30(初秋露以下四首) 31(夕立晴以下四首) 32(野草花以下四首) 33水無瀬宮御法楽(江萩以下六首) 34(雲外郭公以下十首) 35作者不明点公福(秋田以下六首) 36同(嶺紅葉以下二十四首) 37三条西実称(以下68まで) すべて年禁中月次(野春駒以下六首) 38(夏花以下四首) 39(初郭公以下四首) 40禁中月次(朝早苗以下六首) 41同(雲雀以下七首) 42同(野外若草以下四首) 43(柳糸随風五首) 44禁中会始(露暖梅開五首) 45仙洞月次(紅躑躅以下六首) 46禁中月次(雲雀以下六首) 47同(萩露以下六首) 48仙洞月次(林間蟬以下六首) 49禁中月次(晚夏納涼以下六首) 50(簷廬橘以下五首) 51御月次(郭公遍以下五首) 52(春駒以下五首) 53禁中月次(岸柳以下四首) 54(更衣以下四首) 55(路柳以下四首) 56(遠尋花以下五首) 57(初雁以下四首) 58(待恋以下五首) 59(五月雨以下五首) 60(寒夜月以下五首) 61(帰雁幽以下五首) 62(池月秋久四首) 63禁中月次(寒樹以下六首) 64仙洞水無瀬法楽他(夕鶯以下六首) 65聖廟御法楽(冬田以下四首) 66仙洞水無瀬宮法楽・同聖廟法楽(恋幽以下四首) 67同(待郭公以下四首) 68同(月前雲以下四首) 69三条西廷季(以下77まで)天明四年十一月十二日番衆当座(寄雨恋以下四首) 70六年三月廿八日

47

月次(朝花以下六首) 71寛政三年十一月廿八日及び十二月廿四日など一宮月次(常盤木雪以下四首) 72年月不明以下禁中月次(桃以下六首) 73同(同) 74仙洞月次(月照山雪以下四首) 75同(浦春曙以下四首) 76禁中月次(花随風以下四首) 77同(寒月以下六首) 78三条西実勲(以下88まで) すべて年禁中月次同(時雨以下六首) 79(連日雪以下六首) 80(晚立以下四首) 81(早梅薰風以下六首) 82(新樹露以下六首) 83(小鷹狩以下六首) 84(秋植物以下六首) 85以下「端空」と署名実勲の法名(萩交薄以下六首) 86(暮春以下四首) 87(神楽以下四首) 88(岡梅以下四首) 89三条西季知(以下94まで)嘉永三年三月五日三条三品羽林当座(花以下四首) 90年月不明以下(余寒月以下十三首) 91(鶉川以下六首) 92禁中月次(早苗多以下六首) 93公宴月次(遊糸以下六首) 94禁中月次(時雨以下六首) 95三公盛(夕虫二首花押評点) 96三公広(林葉漸紅四首) 97有頭(深夜春月以下八首) 98荣丸(八月十五夜一首) 99作者不明以下元文五年八月石清水法楽等(月以下二十九首) 100年月不明(冬十五首) 101同(螢以下四首)

ト 歌雜及び歌謡

五条三位九十の賀の記写(江戸中期) 小横 一冊  
(仮綴)「よろづの道を……」以下。貞治三年八月廿三日  
(爲重)  
 羽林郎将藤の本奥書あり、その転写本)

48 歌雜々紙背、書簡等 三条西実条 写(自筆) 中横 一冊  
(諸歌書よりの抜書、メモ。古今相伝次第が中心)

49 「三条西実勲和歌管紙」 文政三年八月二十八日 三条西実勲  
写(自筆) 一紙 (実勲より新大納言・権中納言宛)

50 撰要目録 明空・月江 写(室町末期) 中 一冊

二 物語・紀行・隨筆・國語

51 源氏物語 紫式部 写(江戸初期写) 五十四冊  
(蒔絵箱入、伝実枝筆)

52 「明星抄」<sup>初卷</sup> 写(室町末期) 大 一冊  
(仮綴。大永戊子夏五下旬候、老比丘御判、天文甲午曆冬  
至日、八旬老衲判の本奥書あり)

53 細流抄<sup>第一、第二、第五</sup> 三条西実隆講・同公条聞書 写(江戸初期)  
大 二冊 (第一は桐壺、若菜、第五は乙女、常夏)

54 源氏物語筆者 写(天文八) 中横 一冊 (源氏物語を人  
々に書写せしめる為の分担者名簿の如きもの。桐壺、若菜、常夏  
にマ)

55 「井上通女紀行」 別名備家道の記 井上通女 写(江戸中期)

56 「慶応二とせといふ年」 写(江戸末期) 大 一冊

57 秘言談抄合編本朝世紀(康和元年・五年) 写(室町末期) 大 一冊  
(仮綴。言談抄は故実隨筆。三条西実世筆か。奥書は公条  
筆、「右一冊申請 禁裏御本令頭中将令書写者也、銘一字  
滅記抄有之不明、後日可加清書也 大永八仲夏下旬都

58 督郎(花押)。本朝世紀は別筆、室町末期写)  
仮名遣「近道集」 写(室町末期) 大 一冊  
(「中のえを書事」以下)

II 解 説

3 僻案集 いうまでもなく定家が俊成の口伝に基づいて三代集  
から歌を抄出し注釈したものである(但し拾遺集は口伝が  
なかったという)。掲出本は、類従本等の流布本と大異は  
ないが、末尾に「追注付 三代集集之(朱) 永正第二仲秋七日以成  
本見合之以朱左之短同  
声等書如也」として「かはやしろ」等の語注を付記している  
(これは康暦二年為重書写本系本等に存するもの)。更に  
注意すべきは左に掲げる奥書である。

嘉禄二年八月 戸部尚書<sup>イ本云</sup>「此草注付之後、拾遺相公……」  
の後にある左記奥書である。  
文応元季二月之比賜此秘書、此書是故京極禪関白抄秘々中  
秘書也、奥書之為躰拜見嫡ニ外不可見之歟。○此自書老眼  
遮淚短慮銘肝自幼稚之昔至裏老之今好此道経卅余廻之春秋  
自生年十六歳至于積寿五十六練行積年稽古累日差是答此行  
業其念力神明加冥助仏陀垂加護耳、良守滅後臣將禪門末  
子可伝之者也、不可伝他家故也、昔者山林流浪之修行者踰  
伽秘密之学者今者欣求西行之老比丘念仏不退之行人也

法印大和尚位良守

抑亜相禪門雖為不堪之身已於勸統後撰一首被書入、芳志至  
以今生微力難報之、其後亦古今後撰等文<sup>虫撰</sup>被奉授、剩

賜此事実広却多生之宿縁歟、不知又世々生々恩愛歟、可報可謝、奉任三蜜照覚者也。  
本年五十六拭老眼自書之了

正応二季九月廿九日書写之早、此抄物者三代集之撰者民部卿入道嫡々相承之本也、兄弟骨肉猶以不被免披覽、况他人哉、而先年後室号阿仏房并同腹之子息相与嫡子為民部卿有相論之事、依之就中院垂相欲違上聞、即彼垂相以道理之所用及驚上聞、為附此恩從於此事許一見之間、雖不得被免、片時之間所書写也云々、中院羽林聊依有契約之事、相互不隔纖界然間暫乞諸所書写也、云為彼家云為我道努々可慎他見者也

同十月八日一交畢

文明第五曆大荒曆孟夏下旬候書写早

太悅判

以右本長享元季仲種下浣之候令書写校合訖、秘藏く務無出圈外而已

仙源

(別巻) 文祿三年七月十一日書之也

右中将藤(花押)

12

〔三条西実連詠草〕享德四年 長祿二年十七歳で夭逝した秀才三条西実連(初名実貫。公保長男、実隆兄)の自筆詠草。

実連は十二歳の享徳二年初めてその邸で歌会を催し、その後しばしば歌会・詩歌会・和漢聯句会を行っている(井上『中世歌壇史の研究 室町前期』参照)。康正二年内裏八十番歌合にも出席。掲出本は九紙を継ぎ合わせたのみの未装本、十四歳の詠草。

約百十首。第一紙端裏に「詠草享德四也 百首哥等略之口希如々繼」詠草内題及び巻頭は

享徳四年詠草

正月 勅題

廿八日 禁裏内々五十首

寢覚 時鳥それかとばかりきこゆ也ねにあかすく夜(マ)のこ

ゑ

郭公 「こゑを」とづれすてて時鳥又誰かたのねざめとふらん

らん

第一紙は六首、左端に「二月」と記して次の紙(第二紙に当たるもの、すなわち二月分の紙)欠。以下三十二月分。詞書には、若宮短冊、甘露寺月次(親長は実連の伯父)、室町殿月次、飛鳥井雅康会・愚亭会などがみえる。末に享德四年也康正元年詠草 左少将(花押)。

13

〔三条西実連詠草〕 自筆詠草。二十五紙継合せた未装本。端欠。下旬より始まる。「ちとせをちぎる和哥のうら松」。墨

消六首を含み二百首。あまり詞書ある歌はみえないが、「春日同詠三首和歌 権少将実連」、「五十首詠草 古集古言一句為題」などとあるものを含む。末の方に「禁享徳二十廿八一首」云々とあり、享徳二年の詠草かと思われ。合点ある歌も多い。

50

撰要目録 墨付二十五枚。本文は竹柏園本に近いが、掲出本には、目録の作者名の右傍に頗る注意すべき朱書き(本文同筆)が多くあって新たな問題を提供する。これについては柴田の「撰要目録の撰者と作者群についての一考察」(本誌 二七頁)を参照いただければ幸いである。



## 付 記

早大図書館に三条西家本の一部が入ったのは、昭和二十五年十一月故岡村館長の時で、翌二十六年三月第二回早大図書館特別圖書展にその一部を陳列したものである。

本書のうち未装幀および仮綴のものについては、図書館においてその後修補を加えた。本書の請求番号は、二一四八六七であり、特別圖書に指定されている。

右の外、三条西家本が諸方に分散した事は周知の如くである。書陵部には匡衡集抜萃・遠情抄を含む五十余点(大部分は岡大蔵・薩戒記等の記録類)、学習院には万葉集聞書抄(五味智英氏の紹介がある)以下、天理図書館には浄弁注古今集以下、日大図書館には証本源氏物語等々が蔵せられていると仄聞する。日本古典文学大系の底本となった梅沢本栄華物語も三条西家旧蔵本の由である。なお「弘文莊待賈古書目16」(昭和二十三年七月)以下に三条西家旧蔵本(物語・歌書・記録類その他。多くは古写本)が数多く掲出され、三条西家の蔵書が豊富であった事を物語っている。

早大図書館蔵三条西家旧蔵本は、大きく文学書類と記録類に分けられるが、文学書類は既述の如くで、中に三秘抄・撰要目錄などの如く頗る注意すべきものもあるが、多くは室町期以後の作品で、現在の国文学界における研究者の関心からすれば、或は大きな注意は払われないかもしれぬ。しかし実筆の歌学書や家集類は、仔細に読むと、室町末から江戸初期にかけての廷臣歌人の動向を探りうる好資料である。例えば慶長十九年の「東国名所在

名三村雑々覚」には

江戸の御ふしんをみて

御ふしんのあたりをとへばむさし野に

人の数さへはてなかりけり

(巻軸歌)

よるとひる<sup>ヒル</sup>二日の時の数うつは

しかけあしきかわるきとけいか

など興味あるものがある。そのほか詠草には幽齋に関する資料も散見し、紙背には光広らの書状があったりする。数多い実条の懐紙には也足軒通勝や幽齋の自筆評点があつて注意を引く。なお歌学書や注釈書類に古写本の多い事も一応留意されよう。

なおこの外に三条西季知を中心とする記録類若干をも蔵するが本稿においては省略した。

摺筆にあたって伊地知鐵男・加藤諄両先生から多くの御教示をいただいた。記して謝意を表したい。

### 本間久雄『明治文学 考証・随想』

著者の戦後、明治文学について書かれた諸文の中から、考証・評論・解説を前篇とし、随感・随想を後篇としたもの。巻頭に口絵多数が掲げられ、装釘高雅な楽しい本である。著者は早大名譽教授。

(新樹社刊・A5版四三〇頁・定価一、五〇〇円)